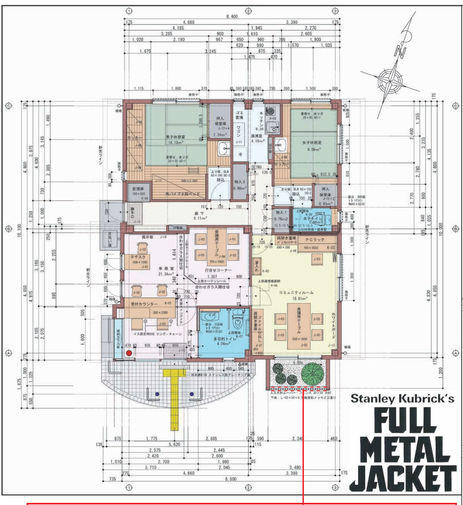
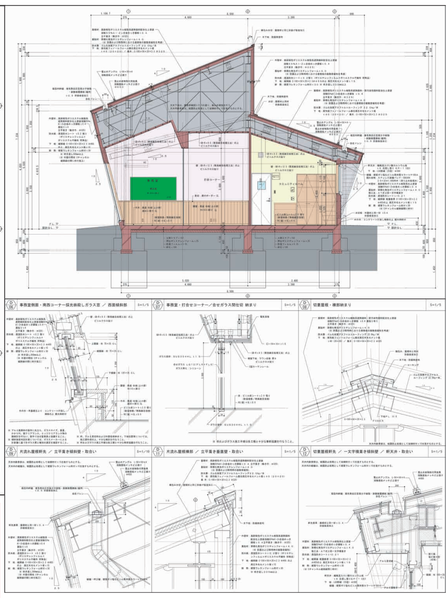
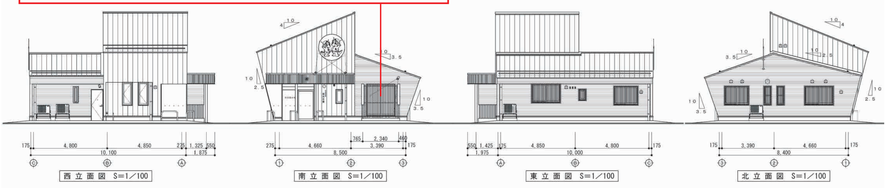
敦賀警察署美浜交番

福井県三方郡美浜町の国道27号線沿いの中心部である河原市に位置する美浜交番は昭和48年に建築され40年以上地区の治安を守る拠点施設として機能を果たしたが、経年劣化が顕著であり、現代の高度情報化社会における多面的に複雑化した社会的諸問題を反映した治安維持拠点施設として、また勤務職員の生活空間として快適性の向上とともに「安全・安心」の新たなランドマークとして地域住民にとって心の拠りどころのシンボルとなるアイデンティティが視覚的に感じられる交番デザインの発想が求められた。主要幹線道路に沿って立ち寄りやすい親近感を持ちながら、舞鶴若狭自動車「若狭さとうみハイウェイ」の全線開通を意識した観光イメージ・アップに貢献する躍動感も込めるなど、かつての交番にあった重々しさを払拭する提案を要求され建築設計者として意欲的に取り組みたくなる改築プログラムである。すなわち特に外観は創意工夫を盛り込み、他の交番に無い新しい魅力が求められた。但し限られた厳しい予算内に納めるためには、設計仕様にも創意工夫が必要不可欠。スタディを重ねる中で立地性に着目し、美浜町の頭文字であるmをモチーフにした のロゴマークの丸みを帯びたデザインイメージを直線的にアレンジを加え、正面ファサードを見た際に隣り合う空間構成上の違いが視覚的にパッと見てわかりやすい斜傾のある立体感を特徴としたインパクトを持ったファサードを提案した。

参考施設見学を行った交番は、デッキコンクリートスラブ陸屋根となっていたが、建物経量化と併せてコンクリート工事を基礎と土間のみとし、窯業系サイディングとガルバリウム鋼板葺きの組み合わせが外壁の主流である他の交番と一線を画する美浜交番は屋根と外壁を含めた外装すべてをガルバリウム鋼板葺きのフルメタル・ジャケットとする工事項目の単純化を図ったインパクトの強い外観デザインで創意工夫によって限られた予算内で設計額を収めながらアイデンティティを創出した。かつて観たスタンリー・キューブリックの映画『フルメタル・ジャケット』の内容とは呼応しないものの、タイトルに導かれた外装オール板金シリーズの最初である。インパクトを持つ片流れ傾斜タワーを取り囲むバックヤードを緩勾配の切妻屋根で低層に抑えて配置した外観構成は、葺き張り工法と外装色を変えメリハリの効いた外観デザインを創出した。正面出入口廻りガラス面は、傾斜外壁にそのまま倣った傾斜コーナー方立によって傾斜ガラス面に連続した内部が見えやすく外部も見通しやすい軽快なデザインとし、設計に投入したエネルギーが施工に要するエネルギーと合わさり、「安全・安心」を伝える建物固有の逞しさとなる役目を担わせている。インパクトを持った片流れ傾斜タワー状の事務室エリアは、高層部を活かした傾きのある吹抜け状の高い天井とし、奥にあるミーティングコーナーへ透明性を有する開放的な空間とすることで、従来型の交番にありがちだった重苦しく威圧的な圧迫感を生じさせないよう意図的に見通せる配慮をした空間デザインを展開させている。





■自然通風および採光策として外構・侵入防止目隠し縦ルーバーを設置

配属された巡査の立場を思い巡らしたとき、室内から外部の気配を感じたり、気分転換に外の空気を吸ってみたいという行為を実現するための手法を検討し、侵入防止目隠し縦ルーバーによって囲われた坪庭のような外構に面して掃き出し窓を設け、自然通風＋透明ガラスによる採光策として機能させることを発想し、再生複合木材押出中空成形品を使用して、「フルメタル・ジャケット」の外装に、掃き出し窓の開閉が可能な空間を創出し、治安維持業務の合間に「ホッと一息つける」ナチュラルスペースを提供した。